

まんさく

第265号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



【シュミレーション風景】①受付 ②問診 ③データ入力 ④ワクチン接種



こちらは本番風景…とても緊張しましたね(笑)

ノ回目の接種に先立ち、佐々木
 医院職員さんや役場担当課の方々
 と光寿会職員でシュミレーション
 実施。①受付から④ワクチン接種
 に至るまでの所用時間を計測し、
 不明な点についてはフリートリーク
 を通しながら、細かい課題を共有
 する会となった。その甲斐もあり、
 本番は滞りなく対応できた。

念入りにシュミレーションを経て
施設内ワクチン接種
 《令和3年4月・5月》

令和3年度の光寿会共通のキーワードは『知る』

【生活】「①生活・ケアマネ部門」 ☆細川るみ子、高橋健☆

法人キーワード		2020年度共通のキーワードは『観る』	
2020年度の最終的イメージ	テーマ	観て観ぬふりせず『観て聴いて関わる』	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		①お年寄りをよく観て、心と体の変化に気づける。	②お年寄りの暮らしのつなぎ役として、お年寄りのご家族の想いを実現できる様はたらき掛ける。
具体的な取組み <small>(いつ、何を、どのように)</small>	①待てるケア・見守れるケア・尊厳あるケアを心掛ける。 ⇒せかさず、ゆったりとした生活リズムを！ 〔通年〕 ②表情をしっかり観る。 ⇒各部署と連携し、変化に気づき対応していく。 〔通年〕	①お年寄りのご家族の声を聴き、各ユニット職員間と共有し対応ができる。 〔通年〕 ②願いを引き出し、連携しながら実現できる。 ⇒"〇〇が食べたい、"〇〇に行きたい、等 〔通年〕	
2020年度の検証		<p>※コロナ禍のため、ご家族の面会を制限させて頂く事になり、十分に叶わない面があった。こちらが思っている以上に、ご本人・ご家族の心理的負担や寂しさが大きい事に気づかされた。ご家族との情報共有（遠方のご家族についても）をより図っていく必要がある。</p> <p>※オンライン面会では、介護職員がお年寄りに付添う形となり、ご家族との関係づくりを働きかける事ができた。</p> <p>※数回ではあったが、紅葉ドライブの機会を働きかける事ができた。</p> <p>⇒来年度は、よりそうした機会が創れるように考えていきたい。</p>	



法人キーワード		2021年度共通のキーワードは『知る』	
2021年度上半期のイメージ	テーマ	『知る』を繋げる	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		①オンライン面会等の充実	②お年寄りの過去と今が繋がるよう働きかける。
具体的な取組み <small>(いつ、何を、どのように)</small>	①お年寄り・ご家族・職員それぞれの想いが繋がり合うように橋渡し役を務める。 ②それぞれの立場からの想いや願いがある事を知り、都度検討を重ねながら改善に努める。	①お年寄りの過去を知り、今の生活に繋げる『個別ケア』の実践を改めて働きかけていく。 〔現場の状況を知り、連携しながら〕 ②お年寄りの願いを知り、ユニットと連携して実現できるように働きかける。 〔外出・食事・趣味等々〕	

【ひやりはっと及び事故まとめ】(令和2年度下半期)

前回R2年度上半期より『38件減』

場 所	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居 室	21	19	5	17	6	24	92
廊 下	2	1	1	1	4	2	11
ホー ル	2	2	2	2	1	3	12
浴 室	5	3	5	5	3	6	27
トイ レ	1	3	3	0	1	0	8
介 護 室	1	0	0	0	1	0	2
茶の間〔1階〕	0	1	0	0	0	0	1
ベ ッ ド	1	0	1	0	0	1	3
こまち広場〔2階〕	0	1	0	1	0	0	2
そ の 他	0	0	2	0	0	1	3
合 計	33	30	19	26	16	37	161

所 見	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
骨 折	0	0	0	1	0	0	1
打 撲	2	0	0	0	0	0	2
内出血	10	7	7	8	4	11	47
表皮剥離	1	1	0	1	0	2	5
切り傷	3	1	0	0	0	0	4
擦り傷	2	3	1	0	1	1	8
掻き傷	0	0	0	1	0	4	5
爪外傷	0	1	0	1	0	4	6
下 痢	0	0	0	0	0	1	1
特に無し	15	17	11	14	11	14	82
合 計	33	30	19	26	16	37	161



事故内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒・転落	9	8	6	11	4	3	41
外 傷	17	14	7	11	5	22	76
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	2	1	3
異 食	1	1	0	1	1	0	4
尿カテーテル	0	1	0	0	0	0	1
自 傷	0	0	0	1	0	0	1
経管栄養	0	1	0	1	0	0	2
与 薬	1	0	0	0	0	1	2
点 滴	3	1	0	0	0	2	6
その他	0	1	1	0	0	0	2
見守りエラ	1	1	2	0	0	3	7
管理ミス	1	2	3	1	4	5	16
合 計	33	30	19	26	16	37	161

発生時間帯別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
6:00～8:00	4	3	1	5	0	1	14
8:00～12:00	9	5	7	7	5	14	47
12:00～18:00	10	6	5	9	7	9	46
18:00～22:00	3	4	5	3	1	4	20
22:00～6:00	7	12	1	2	3	9	34
合 計	33	30	19	26	16	37	161

介護度別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護Ⅰ	0	0	1	1	0	0	2
要介護Ⅱ	1	1	0	0	0	0	2
要介護Ⅲ	8	14	9	10	8	11	60
要介護Ⅳ	13	11	7	8	4	12	55
要介護Ⅴ	11	4	2	7	4	14	42
合 計	33	30	19	26	16	37	161

【件数の減】自主的に行動できる方たちの転倒・転落等の発生件数が減った事が主な要因ではないか。

【時間帯】午前と午後の発生件数がほぼ同じ。午前の介助中の外傷が続いた事も要因の一つか。

【事故内容】転倒・転落と外傷との逆転現象が昨年度から見られたが、今年度は半数近くの大差をつけて外傷がトップ。自分で動ける人の減少？介助中の受傷が増加？

【介護度別】要介護Ⅲが三半期ぶりにトップ。特定の個人(多発者)に集中した事が大きいものと思われる

子孫を大切に育て上げた心は後世に継承



藤原マサ子さん【87歳】

歌と踊りが大好きで、歌を口ずさんだり、手踊りをされ楽しんでいる方でした。そして、いつも手を合わせながら、「ありがとうございます」と言ってお下さる方でした。お子様やお孫様からも大事にされていたマサ子さん。沢山の優しさをありがとうございました。

担当・佐藤俊子

『今生より
往く』

光寿会へのご支援 おかげさまでした

寄贈

- ☆ 北島正敏様 [仙台市]
- ☆ 照井秀夫様 [川尻]
- ☆ 菅原康悦様 [滝沢市]
- ☆ 小松陽子様 [秋田県]
- ☆ 吉田英幸様 [北上市]

訪問

- 散髪ボランティア (4/5)
- ☆ 藤田陽子様 [川尻]
- 運営推進会議 (4/22)
- ☆ 外部運営推進委員 様 … 10名



職員募集!

☆仕事をしながら国家資格も取得できます☆



一緒に頑張ってくくれる人お待ちしています♪

想... 災害を捉える ~大阪から発信を始めます①~

『私の背中を押してくれたもの』 大阪市・松岡由美 さん

今月号より連載スタートして頂くのは、3.11をきっかけに防災士資格を取得し、防災の精神を世間に発信されている大阪府の松岡由美さんです。味わい深く読んで頂きたいと存じます。

この度、大役のバトンを拝受し、身の引き締まる想いで言葉を紡いでいます。私は社会福祉士として、福祉分野の相談職と防災士として、活動がけなき防災の取組みは定着しないという想いを携って、地域・福祉医療関係・行政等で講演活動を行っております。

2014年に復興支援のため、宮城県で暮らしていた友人が声を掛けてくれて、初めて東北を訪れました。当時は地域包括支援センターで勤めており、地域防災、地域のつながり作りという地域支援の職責がありながらも、災害に対する取組みができていない自分に情けなさや葛藤を感じていて、それは社会福祉士として、最愛の妹がダウン症である当事者家族として、何より一人としてより想いでした。

各地を訪れ、今、立っているこの場所は誰かのお家だったかもしれない。目の前に広がる光景は筆舌につくしがたく、自然への畏怖を感じました。そして、これ程までに容赦なく、ここに生きる人の暮らしや尊い命を奪った大災

害を経てまなび、地元の方の悲しみに裏付けされた強さに触れ、出会えた皆さんが、よく来てくれた。またおいでと笑顔で温かく迎えて下さいます。

大阪では、東北訪問を知った住民さんが、現地は今を伝えて欲しいと自宅を開放し、愛情溢れる手作りの報告会を用意してくれました。涙を流し、心を寄せて報告を聴いて下さった住民さんが、こう声を掛けてくれました。

松岡さん。この講演は絶対に今日で終わらせたらあかん。もっと多くの人に伝えなあかん。もっともっと多くの人達に聞かせるべきや。住民さんの後押し受け、これに彼に続いていく第1回目の講演会となりました。

その後、3年間で計5回に渡り、久慈市・大庭町・気仙沼市・南三陸町・一関市・陸前高田市・石巻市・東松島市・仙台市・亘理町・南相馬市を訪れ、自分の五感を通して知ったこと、心で感じたこと、気づいたことを「想いを乗せて伝

える」覚悟を持ちました。とは言え、私も語っていいのかもしれない想いはずつとあります。しかし、自らの立場も未熟さも承知の上で、必ずやるであろう災害の前に、今何を準備して、その時に何をして、その後共に笑いあい、救える命がひとつとして消えてしまわないためにできることがある。と信じて活動しているその想いを、大阪からお伝えしていきたいと思えます。【次号へ】

防災士 社会福祉士
NLPプラクティショナー
コミュニケーション能力マスター

社会福祉法人 ライフサポート協会所属

社会福祉士として高齢、障がい分野で相談支援に従事。東日本大震災後、被災地入りしたことをきっかけに防災士を取得。防災に取組む動機付けをテーマに地域や学校、行政や福祉職向けに防災関連の講演を続けている。

相相談職とNLPプラクティショナーの視点から、コミュニケーション、支援の質や価値、接遇などをテーマでの講演も行っている。



松岡由美

今月の登録者の方々
16名様です♪



感染症対策も春よ来い♪…「ひなたぼっこの日常」



★昔とった杵柄★
空越しの再会♡

第1回『運営推進会議』(4月22日)

ひなたぼっこ運営推進会議委員名簿 [R3年度]

	氏名	役職
委員名	1 真嶋 実	上野々地区行政区長
	2 高橋 純	上野々地区協議会長
	3 照井 勝憲	川尻1区民生委員
	4 石川 田喜夫	川尻2区民生委員
	5 照井 三枝子	上野々地区民生委員
	6 米沢 典子	上野々地区民生委員
	7 廣田 宏	西和賀町社会福祉協議会事務局長
	8 高橋 純一	有識者代表 (前西和賀町社会福祉協議会前事務局長)
	9 高橋 巧	西和賀町消防団
	10 深澤 早苗	西和賀町健康福祉課 課長代理
	11 淀川 豊	住宅型有料老人ホーム 湖畔の宿施設長
	12 利用者	※利用者持ち回り出席
	13 利用者家族	※利用者家族持ち回り出席
スタッフ	1 太田 宣承	開設者
	2 刈田 光太	事業所管理者
	3 菊地 春美	管理者補佐
	4 細川 浩	総括課長

△ 外部委員10名・職員5名出席

【委1】新しく委員になられた方もいるので、個人情報等の取り扱いについてご説明願います。

【職1】本会議に提出された資料及び会議内容について、名前は勿論、認知症状等の情報等々お持ち帰りする事となりますが、地域・家庭内家族等にも目に触れる事のないよう、秘密保持頂く事、また委員を退いた後も同様に注意願います。

【委2】4月より登録定員が18名と

なっておりますが、湖畔の宿の出入りも含め、ひなたぼっこ利用申請状況等の説明をお願いします。

【職2】4月1日現在、上野々地区から1名の方の利用が始まります。現時点での湖畔の宿への申込みは2名ですが、1名は入院中であり在宅復帰が見込めない状況。他2名の方々が新規利用する事で、ひなたぼっこ利用者数は16名となります。また、湖畔の宿入居検討会も後日開催し決定します。

『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間をご紹介します】



吉田 ヤエ さん

*西和賀町
*昭和のお生まれ



照井マツノ さん

*西和賀町
*大正のお生まれ

第90回



地域役員
小森一彦氏

第90回目は、昨年度から家族会地域役員をお願いしております、小森一彦様より頂戴致しました。

家族会役員をお願いされて2年目に入りましたが、新型コロナウイルスの流行により大きなイベントもできなくなり、何もかも新しい生活様式になり戸惑い事ばかりですが、早朝の草刈り、年末の大掃除等、環境整備の分にはおいては何とかなるまで通り、皆様の協力により出来ていると思います。今後とも、皆様の協力を得て役員の仕事を務めたいと思いますので、宜しくお願い致します。

母の執跡を探ねて①

いとほしいですが、少し母の執跡を羅列してみます。

母の出生地・ハツ又の久助(屋号)の父は、腕の良い大工職人で、6人兄妹の5番目、家では米のご飯を食べて育った母が嫁いだ家は太志田の森(屋号)、貧乏農家で米が取れず、稗だけしか栽培してはなかった。一番の苦勞が食事で、箸で取れず喉は通らず、跡取り娘の大姑はお椀の縁を箸で叩いてまよめから箸で口に入れて食べている。それを見て、真似をして食べたのだそう。母は実家から少しづつお米の苗を分けてもらい米を作るようになった。

私も小学校四年生までは、稗8に米2の割合で炊いたご飯を食べていたものだ。後に当時のことを振り返り、笑い話として母が語っていたのが思い出される。

偉大な母の姿を、今になると余計感じさせられ、私も當時を思い返している。『次号へ続く』

元気です！家族会♪

光寿会 265号♡



死にゆく 老いの歩みの遅くとも

《高浜虚子》

第4回

マルタン房

自然法爾

〔じねんほうに〕

私の住む寺の隠居所から、古木となった櫻の樹林が見える。今年は例年より早く純白に薄紅を刷いたような花を付けた。ここは大正15年に建った村の小学校跡で、校舎建築に合わせ植えられたソメイヨシノが、95歳になった今も元気で花を咲かせている。

遠き日の学舎合影し さいら咲く 無佛

先日、寺の総代会の時、その中の一人が、
「オラの子どもの頃は五月五日が運動会だった。櫻の花から散っていたな！」

と懐かしむ。誰しもの遠い思い出に刻まれた学舎。

櫻をほめに行こう！と思いい立ち、ステッキを把って隠居所を出た。若い頃なら十分も

かからなかつた昔の学舎までの道を、土手に咲く花を愛でながら歩く。春には、青や紫色の花が多いな。これは「姫踊り草」。明治の頃、ヨーロッパから渡米した植物だと図鑑にはあった。昔は、花を観ながら歩いたことなんてなかったな。今、ようやくその時を得た。老いの果報と言うものか。花をほめる。立原正秋の小説がよく使っていた。佳い言葉だ。

丸田善明 (マルタン房)

おわりに

イラスト：1000

お年寄りあるあるのこの場面、振り返っては私たちが笑顔にさせられてしまうもの。しかし考えてみると、これは人そのものの姿のようにも思う。他人の事はよく見えてあれこれ評論してみるものの、実は自分自身の癖であり、似ているからこゝ気にするのだろう。

※とは言え、2回目緊張してまます(汗)